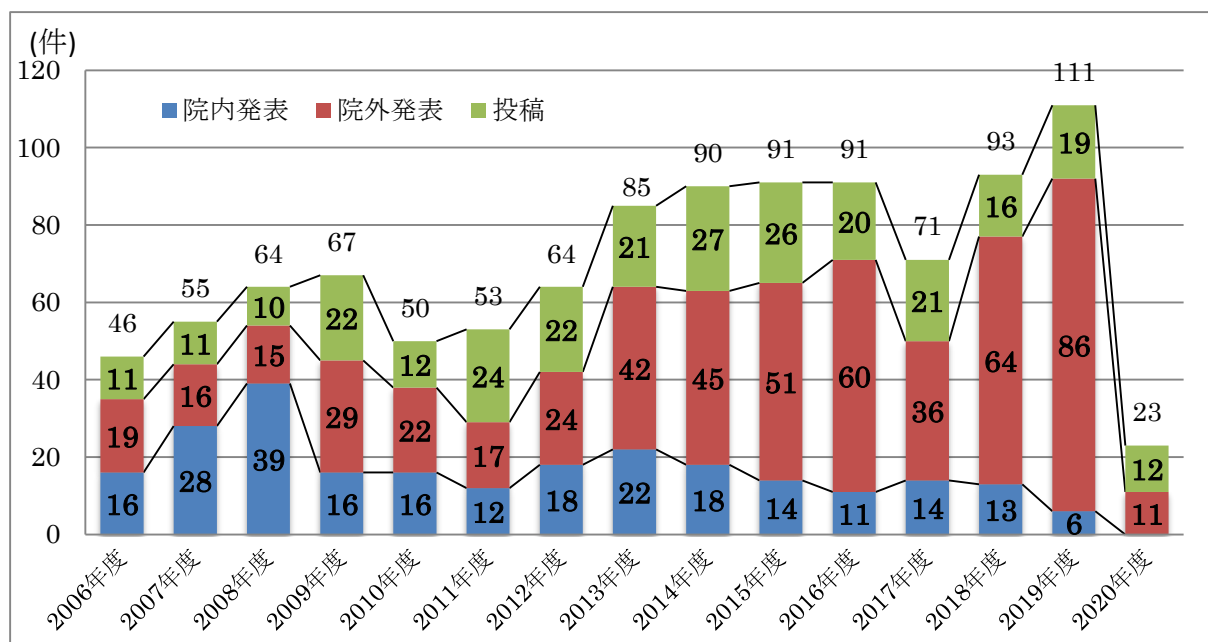


7 5. 看護研究発表数



専門職である看護職では、積極的な研究活動を行うことが求められている。

2014年度には看護部ラダー教育として「看護研究への取り組み」を2コースに分け、段階的に学習を支援した。藤田医科大学保健衛生学部看護学科の教員と協働し、より質の高い研究として取り組みを始めた。2016年度からは文献クリティークを学び、日々の看護実践にエビデンスを持って取り組むことが今後の研究活動となるよう育成を図った。2017年度より院外発表が減少しているが、研究倫理審査を通過するよう研究計画書の作成レベルを上げたことがその一因と考えられる。その結果を反映し2018年度からは研究支援担当者会を設置し一人ひとりの研究支援が充実され、院外での発表に向けて活動を始めたことにより2019年度の院外発表数は飛躍的に増加した。しかし、2020年度は岡崎医療センター開院に伴い日常業務の質担保を優先したことに加え、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う開催中止により、研究発表数は激減した。雑誌への執筆・論文の投稿は専門・認定看護師を中心に活動し、多くの全国誌への掲載を通して看護部の活動を発信している。

研究活動は大学病院の看護部の使命である。2021年度初頭に藤田医科大学社会実装看護創成研究センターが設立に伴い、さらに臨床と基礎教育におけるコラボレーションの強化が期待される。体系的に看護研究に取り組みが展開されるよう、支援体制の整備を行っていく。